

2018/07/06

## ACVIM 2018 report

獣医師 5 年目 宍倉拓

2018 年 6 月、米国はシアトルにて開催されたアメリカ獣医内科学学会（以下 ACVIM）に加藤院長と病院のご厚意で参加する機会を賜りました。奇しくも出立前日にはうすけば一骨董通り店で開催されたセレモニーにて同期の田畑先生とともに「ダクタリ・オブ・ザ・イヤー」への選出とのご評価をいただき、感謝とやる気に満ちた出国となりました。

実際の旅程は、まずシアトルの ACVIM に 3 日間参加した後フォートコリンズへ移り CSU のティーチングホスピタルで研修を受ける運びとなりました。ACVIM は言わずと知れた獣医内科最大級の海外学会であり、最先端の獣医療に触れることのできる絶好の機会であります。日頃の診察も近年の ACVIM コンセンサスに基づいた方針決定を行うことも多く、その実際の現場に参加することは一つの目標でもありました。参加した講義で興味深かったのは「エマーゼンシーにおける超音波検査」「非循環器専門医のための心電図検査」「ACVIM consensus statement for IMHA」「胃腸疾患における新規検査法の展望」「腎不全患者の薬用量」「血液動態とケースカンファレンス」「小動物における耐性菌」「小動物の鎮痛薬」「超音波検査による小腸疾患の診断」「肺の超音波検査」などでした。大部分が既知の内容ではありましたが、現時点で最新のコンセンサスとアップデートできたことは大きな収穫でした。これらについて、帰国後個々のスタッフへフィードバックを行い日々の診療に活かすとともに、周知徹底のため 21 日に改めて全スタッフへ向けたフィードバックセミナーを開催する予定であります。

また、CSU での研修は一昨年に引き続き 2 回目となりますが、今回は前回お世話になった皮膚科、腫瘍内科とはまた異なる診療科を見学することができました。3 日間という短い期間ではありましたが、現在私の診療業務の中でもウェイトの重い一般内科、循環器科、麻酔科、画像診断科をそれぞれ半日～一日単位でシャドーイングさせていただき、なかでも一般内科では 4 人のレジデントの先生方を中心に行われたラウンドは特に興味深いものでした。当日の予約患者が持参した紹介状をもとに、問診をとる学生に鑑別疾患や検査プランなどを挙げさせレジデントが要

点をコメントする朝のラウンド、診療終了後に実際の検査結果や評価、診断と今後の治療プランや予後などエビデンスや具体的な数字を挙げながら総括する午後のラウンド。特に広範な医学的知識をもつ複数のレジデントがディスカッションしながら診断や治療プランを詰めていく様は圧巻で、患者にとって良い治療機関であるだけでなく、学生など初学者にとって理想的な教育環境でもありました。「ティーチングホスピタル」たる所以を知ったと同じくして、同等のシステムをぜひとも当院でも構築しなければと強く感じました。より活発で具体的なエビデンスに基づいたカンファレンスを行うよう心がけていかねばなりません。これら改善点についても後日のフィードバックセミナーを通じて検討するつもりでおります。

このように、ごく短期間ではありましたが非常に多くの刺激を受けた本出張の機会を賜われましたこと、改めて加藤院長ならびにスタッフの皆様にご礼申し上げます。今後も HANB のため、ご期待に応えられるよう精進を続けてまいります。今回は誠に有難うございました。



cocktail party にて VCA South Shore Animal Hospital の Dr. Michael Bernstein と。